

図説「胃と腸」画像診断用語集 2022

小野敏嗣

東京都健康長寿医療センター消化器・内視鏡内科部長

本書を手にとって直感的に感じる重厚感はその物理的な特性によるものだけではないだろう。

消化管内視鏡領域の名門『胃と腸』編集委員会がまとめあげた増刊号としての用語集は、「図説『胃と腸』所見用語集 2017」など、これまでも多くの名著がある。初心者に向けた基本から熟練医のための最前線の知識まで網羅しているその完成形は、単なる教科書という枠を超え、各執筆者が消化管内視鏡学に込める情熱が織りなす、もはや一つの作品と言っても過言ではあるまい。

脈々と受け継がれるその系譜において、「図説『胃と腸』画像診断用語集 2022」と王道のタイトルで銘打たれた本書は、さらなる異彩を放つ一冊となっている。表紙を開いてまず圧倒されるのは^{そうそう}錚々たる執筆者

の顔ぶれであろうか。しばし眺めていると、その中にさまざまな関係性が見えてきて、あたかも最前線で活躍される執筆者たちの活発な議論を拝聴しているようにも感じられる。これはすなわち、消化管内視鏡学の最前線で走り続ける専門家たちの息づかいを集約した一冊なのであろう。

総勢約 200 名の執筆者、計約 190 項目、掲載画像数約 750 点の仕上がりは、読む者に圧倒的な存在感を与える。しかしそれでいて、開いたページには常に新しい知識と多くの美しい画像がちりばめられていて、刺激された知識欲に誘われるがままにさらに次のページを捲ってしまう。インターネットで調べれば大概の知識は得られる時代において、本書は書籍というレトロなスタイルでありながらも消化器内視鏡医にとっての

知識欲をくすぐり、それを満たしてくれる。まさに、教科書とは本来かくあるべきとを感じる一冊である。

もちろん、この書籍に至るまでには、先達の努力の積み重ねがあったことは間違いない。しかし、インターネット全盛の時代においてここまで知識欲を刺激してくれる本書は、脈々と受け継がれる師弟の関係性に想いを馳せつつも、姿勢を正して読みたくなる一冊である。ぜひ初心者から熟練医まで手に取っていただきたい。

● B5/2022 年 05 月

定価：7,920 円

（本体 7,200 円＋税 10%）

[ISSN0536-2180]

医学書院 刊